

鈴鹿市立旭が丘小学校で出前授業(総合学習)

★校区に格納庫があったこと ★なぜモニュメントをつくったか

校区内にある特別な施設を歩いて調べたあと当事者・関係者から話を聞く、という鈴鹿市立旭が丘小学校 6年生の総合学習に講師として招かれました。6月10日(木)、桐生 小百合・竹内 宏行の世話人2人が出向きました。

6年生4クラス全員を、①白江野用水 ②桜の森公園防災施設 ③同公園モニュメント ④地図を比べての今と昔、のテーマ別4チームに分け、私たちは③のモニュメントの講師を担当しました。

前半は、桐生がかつて学校から見えていた鈴鹿海軍航空隊の格納庫に絞って話し、後半は、竹内が格納庫が壊されたため、この地にあったことを象徴するモニュメントを建立したいきさつを話しました。支給のタブレットで事前にしっかり下調べをしてきた子どもたちから次から次へと質問を受けました。

格納庫跡は今、住宅地になっていますが、話を聞いた児童のうち4人がこの住宅に住んでいることが分かりました。「ぼくんち、飛行機があったとこに建っとるんや」と驚いていました。授業が終わったあと「家に帰ってみんなに話すわ」「今度おばあちゃんに聞いてみる」などと話していました。

(文責：桐生 小百合)

以下、子どもたちが書いてくれた感想文を抜粋して載せます。

○鈴鹿市がどうやってできたかを初めて知りました。モニュメントには深い意味や思いがこめられているなと思いました。

○格納庫を残してほしいという事を市民にたのまれたけど、結局こわされた、と初めて知りました。

○今まで戦争について深く考えていませんでしたが、二人の話を聞いて戦争は『たくさんの人が苦しめられ、無差別に多くの人命がうばわれた 二度と起きてはならないもの』ということが良くわかりました。

○モニュメントのことをくわしく知れたので良かったです。妹など後世の人たちに広めていきたいです。

○鈴鹿市の始まりが、戦争と深くかかわっていたことや、桜の森公園には元々海軍基地があったことを初めて知りました。

○お話を聞いて戦争の苦しみやおもさがわかりました。・・・二度と戦争が起きないように軽くみないこと、色々な人に伝えていくことを大切にしていきたいです。



鈴鹿市立石薬師小学校で出前授業(総合学習)

★鈴鹿市誕生の歴史を知る ★いまでも残る気象連隊射撃場を見学

6月29日(火)と7月1日(木)、鈴鹿市立石薬師小学校で、6年生(2クラス、39人)に出前授業をしました。校区内にかつて陸軍気象連隊がありました。29日は新築間もない体育館で授業を行い、1日は同連隊の射撃練習場を見学する、という日程でした。戦争遺跡の研究者であり、当会世話人の岩脇 彰さんをメインの講師に、桐生 小百合・岡田 雅幸・竹内 宏行の世話人3人がサポートしました。子どもたちが寄せてくれた感想文(原文のまま)をもとにふり返ってみます。

(文責：竹内 宏行)

◎鈴鹿市の誕生日

○鈴鹿市は1942年12月1日にできて、戦争の真っさい中だったのでびっくりしました。

○鈴鹿市は軍隊がつくった市だということをはじめて知りました。・・・私がよく行っているベルシティや私のお父さんが働いているホンダ工場も、鈴鹿海軍工廠という銃や爆弾をつくっていた所だったと聞いて驚きました。

○他の市は、お城や港なのに、鈴鹿市は海軍工廠だったことを知って少し悲しく衝撃的でした。

○鈴鹿は今どかで平和なのに昔は他の国をせめる重要な役わりをしていて、びっくりしました。

■ 岩脇さんの話

先の戦争は日本が中国の旧満州を支配下に置いた1931年から広島と長崎にアメリカによって原子爆弾を落とされる1945年まで、15年間続きました。その末期1942年12月1日に2つの町と12の村が合併して鈴鹿市が誕生しました。これまである市は城下町や港町、門前町でしたが、鈴鹿市の中心『へそ』は鈴鹿海軍工廠。軍隊がつくった市です。日本で初めてのことです。



◎国内で唯一、気象兵養成の連隊

- 石薬師に陸軍第一気象連隊があったと始めて知りました。天気は戦争に関わっているというのも始めてしりました。風せんみみたいなやつで、風を調べるってすごいなと思いました。
- 鈴鹿市と陸軍第一気象連隊ができた日が1942年12月1日で同じですごいと思いました。
- 私の近所に、りくぐんきしょうれんたいのき地があったなんてはじめてしりました。
- 陸軍気象連隊が石薬師小が約20個分ぐらいの大きさなんて、びっくりしました。
- 気象連隊の記念碑が鈴鹿にあると聞いたので、あったらよってみたいなと思いました。

■ **岩脇さんの話** 陸軍第一気象連隊は気象兵の養成機関で、国内ではここだけ。第二は新京(中国の旧満州)、第三はシンガポール、第四は南京(中国)にありました。2~4年かけ教育し、気象兵として戦地に送られました。

第一連隊の跡地はいま県立石薬師高校と県消防学校になっています。記念碑は石薬師高校の入口にあります。(子どもたちの話で、登校児童1・2班の集合場所だとわかりました)

戦争中、天気予報は禁止されていました。1941年12月7日から1945年8月21日まで、新聞に天気予報は載っていません。

◎そっくり残る射撃練習場

- こんなに学校に近い所に兵隊がじゅうを打つれんしゅう場があることはすごいと思いました。じゅうを打つれんしゅう場のまとは300m先とのことにびっくりした。
- 今日は鈴鹿のことをよく知っている先生たちといっしょに片道1kmを歩きました。15分くらいで着きました。ついてから目の前を見たらいっぱい草が生えている横に大きな木が生えている所が昔の人がじゅうでうっていた所でした。
- コンクリートでなんかかこってあって、昔こんなんをつくってじゅうのれんしゅうをしていたなんてはじめてしりました。こんなにちかくにあったのに、ぜんぜんきづきませんでした。
- しゃげきじょうが、まだあんなにのこっているなんてはじめてした。むしがいてきもちわるかったけど、たのしかった。
- 何さいになったら戦争に参加しなければいけないのかかきになりました。戦争中に戦っている人たちはどんな思いだったのかなとおもいました。
- 陸軍気象連隊でも銃をうつれんしゅうをなぜしなければいけないのかなと思ったけれど、友だちがいわき先生にそのことを聞いて『気象連隊でも戦場に行って、てきがいたら殺さなければいけないから』と教えていただいたおかげで、ぎ問が消えてよかったです。
- 練習場で銃をうった人たちは戦争のところへ次々と送られて天気を見たりしていたんだなと思いました。

○岩脇さんが現場で教えてくれた『まだ銃のたまが落ちている』ということにもおどろきました。銃のたまを見たくまりました。

○小学校から近いところにいせきがきれいに残っているなんて石薬師もすごいところがあるんだなと思いました。



◎ぜひ平和公園に

○いわわき先生はここを公園にしたいと言っていました。なのでいつかしてほしいです。私たちが石薬師のこといろんな人に教えられたらいいです。

○岩脇さんが言っていたように平和公園ができたらいいと思います。これからは戦争が二度とないよう日本も世界もそうになっていければいいと思います。

○先生が言っていたようにあそこをこうえんにしてすずかのすばらしいほこりにおもえることをふやせたらいいな~と思いました。

○あの場所を公園にしたいという夢、とてもすてきななと思いました。また、たくさんの人たちと協力して公園をかんせいさせたいです。

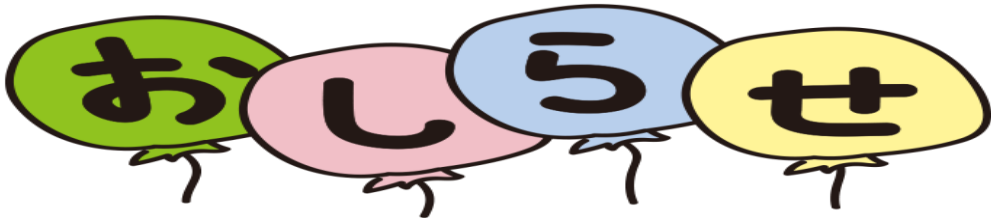
○あのばしょをへいわこうえんにしたいと言っていたのでかなうといいと思いました。

※（射撃練習場についての詳細は6・7ページ「戦争遺跡紹介シリーズ」をご覧ください）

石薬師小学校での出前授業のきっかけは、「市民の会」のホームページを見た6年生の担任、森下友紀先生からの依頼メールでした。森下先生は3年前まで広島市で教師をしていましたが、お連れ合いの転勤でこちらへ来て2年前から石薬師小に勤めています。そのメールは次のようなものでした。

「広島市の平和学習は長年、大切にされてきており、独自の教科書もあります。わたしの夫の父親は被爆者で、祖父は原爆でなくなっています。市内では、被爆資料も数多く目にすることがあり、広島の子どもたちはある意味、とても身近な出来事として考えることができます。しかしながら、三重県の子どもたちに原子爆弾を身近に感じることは難しいと思っています。ですからまずは原爆を知る授業をしたいと思います。いろいろ辛い体験を土台に今の平和があること、それを自分のこととして考えさせたいです。それには、やはり、鈴鹿の戦争を知って考えさせたい思いがあります」

こうして、まず6月25日、森下先生による広島原子爆弾を知る授業があり、続いて「市民の会」による出前授業となりました。



いつでも どこでも 個別に対応します！
～戦争遺跡見学会～

毎年夏休みに企画している親子戦争遺跡見学会は、コロナ対策のため実施しません。それに代えて、個別に戦争遺跡の案内をいたします。

- ①徒歩または車をご用意下さい。
- ②ご希望の戦争遺跡、集合する時間と場所を決めます。
- ③当会のガイドがご案内します。

参加される人数は何人でも構いません。お一人でも大丈夫です。学校やコミュニティ単位の学習にも対応いたします。

ご都合の良い日時でご相談下さい(夏休みに限りません)。ただし、当会のガイドが対応できない日もありますのでご了承下さい。日程が重なった時は先着順に対応いたします。

お申込み先は竹内 (090-2772-1476 ta818hi@mecha.ne.jp) まで

陸軍第一気象連隊と射撃場（石薬師町）

鈴鹿市石薬師町には陸軍の射撃場がほぼ完存しています。銃座から標的まで300mという広大な射撃場が面的に残っているのは県内でもここだけです。

○射撃場の概要

○銃座

銃座の場所にはコの字がをしたコンクリート製の枡形遺構が8基あります。どのように使ったかは不明



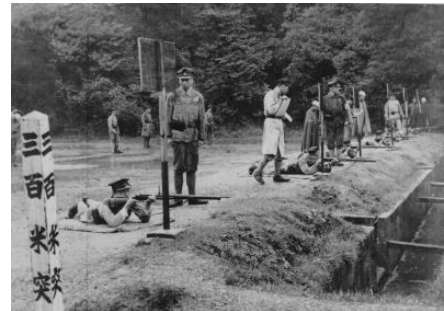
銃座



1947年11月4日 米軍撮影。

ですが、別の射撃場では枡形遺構の上に土を盛っている写真が残っています。(右写真)

戦後、枡形の中に土地の所有者が梅の木を植えられてい



ますが、遺構の周辺は整備されていて見学も容易です。

○標的

銃座から300m谷の奥に入った所に標的のコンクリート基礎が残っています。戦後に土地所有者が畑にするために上に土をかぶせたので露出しているのは少ないですが、銃座と対応するように8基の基礎が残っていると考えられます。

標的の周辺はかなり雑木が生い茂っていてわかりにくく、沼のような湿地帯もあり危険です。見学には冬季がおすすめで、ガイドと一緒にの方が安全です。



露出している標的のコンクリート基礎

○監的壕

標的の前にはコンクリート三面張りの溝が掘られています。これも戦後の盛り土のために大半が埋没していますが、土中には完存しています。現在は露出部分に水が溜まっていますが、当時はこの溝に人が入って標的に弾が当たったかどうかの判定をしていました。監的壕は銃座と対応しているので、発掘すれば溝は40m近くになると考えられます。

○土塁（消滅）

この射撃場は自然地形の谷をうまく活かして作られていて、銃座から谷に向かって撃ち、谷の一番奥に標的があります。標的の背後と



監的壕

両側は急こう配になり自然の防弾壁になっていますが、当時の航空写真で見るとかなり均等な斜面に整形されていたことがわかります。(右写真)

さらに急斜面を上った所には高い土塁が築かれていました。右の写真にも土塁の影が映っていて、影の様子からかなりの高さの土塁であったことがわかります。土塁は戦後10年ぐらいて削られたそうです。

この射撃場は同じ石薬師にあった陸軍第一気象連隊が使用していました。鈴鹿市高塚町にあった陸軍第一航空軍教育隊からも同じぐらいの距離ですが、第一航空軍教育隊の中にも同じ規模の射撃場があったことがわかっています。

○陸軍第一気象連隊

この射撃場を使用していた陸軍第一気象連隊(石薬師)はどんな部隊だったのでしょうか。

陸軍第一気象連隊が石薬師に開隊したのは1942年12月1日。奇しくも海軍によって鈴鹿市が誕生した日と同じです。ちなみに近くの陸軍第一航空軍教育隊(高塚)が開隊したのは、2日違いの同年12月3日。何となく海軍と陸軍の確執を感じます。

陸軍第一気象連隊は気象兵の訓練・養成をしていました。気象兵は気象観測をして天気を予測できる兵隊のことです。

地表面の気温、湿度、風向きと風速、気圧を測定します。そして水素を入れた風船を飛ばして高層風の風向きと風速も測定します。さらにラジオゾンデという機械を水素の風船につけて高層の気象(温度、湿度、気圧)も測定します。各地のデータが東京の高円寺にあった陸軍気象部に集められ、天気図が作成されました。

気象情報は陸軍の他に海軍と気象台が集約していましたが、1941年12月7日～1945年8月21日は天気予報が禁止されたので、新聞やラジオから天気予報は姿を消しました。気象情報は機密情報とされたからです。天気予報が禁止された時期はアジア太平洋戦争の時期と重なります。1941年12月8日に真珠湾の攻撃に向かった日本の戦闘機が、ハワイの天気予報を傍受して真珠湾が晴れていることを知ったことから戦争の時の気象情報の重要さがわかります。

○第二～第四気象連隊はどこに？

陸軍の気象連隊は4つありました。それでは第二～第四気象連隊はどこにあったでしょう。第二気象連隊は「満州国」の首都だった新京(現在の長春)にありました。第三気象連隊はシンガポール、第四気象連隊は中国の首都だった南京です。日本の侵略区域と見事に重なります。さらに第二～第四気象連隊へは第一気象連隊で養成された気象兵が派遣されているので石薬師の第一気象連隊の重要性がわかります。

陸軍第一気象連隊の跡地には県の消防学校や石薬師高校が建てられ、戦争遺跡はほとんど残っていませんが、石薬師高校前の桜並木は当時のままです。かつての連隊正門近くには戦友会が建てた記念碑があります。1995年に県消防学校建設に伴う発掘調査がおこなわれ、古墳跡や兵舎の遺構、軍が残した遺物などが確認されています。第一気象連隊の建設の時にたくさんの古墳が破壊されたようです。(文責 岩脇 彰)



石薬師射撃場。1947年11月4日 米軍撮影。

「平和への祈り展」に1166人

★いわさき ちひろ に人気

★戦争遺跡の写真パネルを展示

2021 平和への祈り展(鈴鹿市・鈴鹿市教育委員会主催)は7月31日(土), 8月1日(日)の両日、イオンモール2階のイオンホールで開催されました。メインは『いわさき ちひろ 平和パネル展』。「いわさき ちひろ が好きで見に来たけど、戦争に関する絵を描いているの知りませんでした」という人もいました。ウイルスの影響で昨年同様、内容を縮小しましたが、1日目555人, 2日目611人と多くの見学者がありました。

私たちは市民実行委員会の一員として『鈴鹿にも戦争があった』と題した鈴鹿市の戦時中の写真パネルなどを展示しました。今回も積極的な声かけができず、参加者との会話が難しかったので、昨年好評だったミニコメントを子どもにも分かりやすいように、ひらがなで貼り付けてみました。小学校低学年の子どもが親に質問している場面が何回も見られました。来年こそはみなさんとの会話を楽しみながら貴重なお話をお聞きするなど、ゆったりとした時間が流れることを願っています。



この夏、鈴鹿市周辺の自治体や市民団体が催した以下のような企画展やイベントを見に行ってきました。考えさせられることも多く、勉強になりました。(カッコ内は主催団体)

- 戦争を語り継ぐ ～広島から亀山～ 【戦争遺跡に平和を学ぶ亀山の会】
- 四日市空襲と戦時下の暮らし 【四日市市立博物館】
- 2021年津平和のための戦争展 【同展実行委員会】
- 平和を考える市民のつどい ～列車銃撃で亡くなられた方の追悼～
【戦争遺跡に平和を学ぶ亀山の会】
- 平和への想いを次の世代へ ～平和に関する企画展～ 【三重県】
- 戦争と三重 ～兵士と銃後～ 【三重県総合博物館】 (文責：桐生 小百合)



発行

鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会

代表

竹内 宏行・中森 成行

〒510-0254 鈴鹿市寺家 1-2-47

電話 059-388-6508

Mail ta818hi@mecha.ne.jp

